


やましたの「今月の逸冊」

僕が本を読む理由は、考え方・価値観を広げるため。自分の知識や知恵なんてちっぽけなものだ。広げるためには、ある程度情報のインプットが必要だ。それには本が一番投資対効果が高い。たかが1500円程度の投資で、10数倍の価値を得ることがある。それはお金だけではなく、これからの生き方として、人生の糧となる。だから僕は今日も本を読む。



部下を持ったらず必ず読む「任せ方」の教科書
／出口治明（著） ¥1,470-
 -Amazonより内容紹介-
 なぜ「部下の相談」に乗ってはいけない?—60歳でライフネット生命保険を起業・成功させた著者が、部下マネジメント論を展開!“任せたいのに、任せられない”と嘆く人への特効薬。あなたの仕事をラクにする本。

◎ 1 + 1 = 2では面白くない

スタッフが一人でもいれば「組織」というのだろうと僕は考えています。人と一緒にやるのは、1 + 1の答えが2になるのではなく、3や4、5、6にもなるから、組織として仕事をやる方が成長できるのでしょう。昨年から事務所に来てもらっているスタッフさんも、僕と正反対のキャラだから、初めは結構イライラしていました(笑)。だけど、人間は違って当たり前と考えれば、学ぶべきことがたくさんあります。彼女の事を、部下とは思っておらず、仕事のパートナーというような考えです。だから、僕も日々たくさんのかんことを学んでいます。

この本から学ぶことは「任せる」ということ。自営業で独立してやっているんだから、スタッフより仕事ができて当たり前です。だから、任せずに自分がやった方が早いと思ってしまいます。ですが、そこをグッと我慢します(笑) この我慢が出来ずに、組織が作れず、人が育たないのでしょう。

ダイバシティーという言葉がこの本で出てきますが、ダイバシティーとは「多様性」という意味です。組織で同じような人がいても面白くありません。僕みたいなやつが2人も組織にいと、うざいだけですよね(^_^;) 多様性があるからこそ化学変化がおきて、答えが3にも4にも変わる。これが経営（組織でやる）の醍醐味なんでしょう・・・と思った方が楽ですよ(笑)

【気づきの逸文】

- ▶ 「自分の能力には限界がある」ことがわかっていけば、一人で抱えたりせずに、「誰かに任せよう」「協力してもらおう」と考えるはず
- ▶ 人間の能力は、それほど高くはない
- ▶ 「マネジメント」とは、突き詰めると「人を使うこと」です
- ▶ 「話し合いはするけれど、決定は一人で行う」のが協議のルールです
- ▶ 同質性にこだわると、会社が硬直化します
- ▶ 私は基本的に「どんな部下でも、信頼したほうが得だ」と考えています
- ▶ 任せる（権限を委譲する）とは、「責任を持たせること」と裏表です
- ▶ 常々、国語ではなく算数（数字）で考えようと心がけている
- ▶ インプットの量を増やすには、人から学ぶ、本から学ぶ、旅から学ぶこの3つ以外にありません